

滑川町にて確認されたカワモズク属について

三瓶ゆりか（川の博物館）

はじめに

カワモズク属は、淡水産の紅藻で、水路や湧泉に生育する。原口（2013）によると、埼玉県内では5種1品種が確認されている。県内では、現在までに、さいたま市、越生町、鶴ヶ島市、日高市、入間市、川越市、新座市、和光市、鳩山町にてカワモズク属の生育地が報告されている（伊藤，1998；原口，2013）。イシカワモズク、カワモズク、アオカワモズクは埼玉県レッドデータ2011に掲載されている。今回、滑川町にてカワモズク属を確認したので、ここに報告する。

生育地の概況

本試料は、2020年3月2日に埼玉県比企郡滑川町大字伊古の水路にて採取した（図1）。水路の上流には釣り堀があり、下流は滑川に流入している。釣り堀の排水口にあたりと考えられる場所に生育していた。水路はコンクリート護岸で、塩化ビニル管直下周辺のコンクリート上に集中して生育していた。

結果と考察

藻体は、青みを帯びた濃い茶褐色またはオリーブ色で、よく分枝する（図2）。主軸には皮層があり、円柱形の細胞からなる。輪生枝叢は融合し、球形または樽形で、太さ210～933 μm 。

藻体は雌雄同株。果胞子体は球形で、輪生枝叢内または外に突出し、藻体からはずれやすい（図3）。果胞子体の太さは67～143 μm （図4）。造果器は、長さ18～25 μm 、太さ8～12 μm のやや膨らんだ棍棒形または杓子形の受精毛をもつ（図5）。

精子嚢は球形で直径6～8 μm 、輪生枝の先端に1～2個つける（図6）。

果胞子体の位置や受精毛の形態などから、本種はカワモズク *Batrachospermum gelatinosum* (Linnaeus) De Candolle と同定される。滑川町でのカワモズクの確認は、今回が初めてとなる。

謝 辞

顕微鏡での撮影に際し、柴田千晶氏と進化生物学研究所の小作明則氏にご協力いただいた。ここにお礼申し上げる。

引用文献

原口和夫（2013）埼玉県のカワモズク属（淡水紅藻）の分布．埼玉県立自然の博物館研究報告，7：85-90．

熊野 茂（2000）世界の淡水産紅藻．395pp．内田老鶴圃，東京．

伊藤 洋（1998）1998年版埼玉県植物誌．833pp．埼玉県教育委員会，埼玉県．

埼玉県環境部自然環境課（2012）埼玉県の希少野生生物埼玉県レッドデータブック2011植物編．433pp．埼玉県環境部自然環境課，埼玉県．



図1 生育地

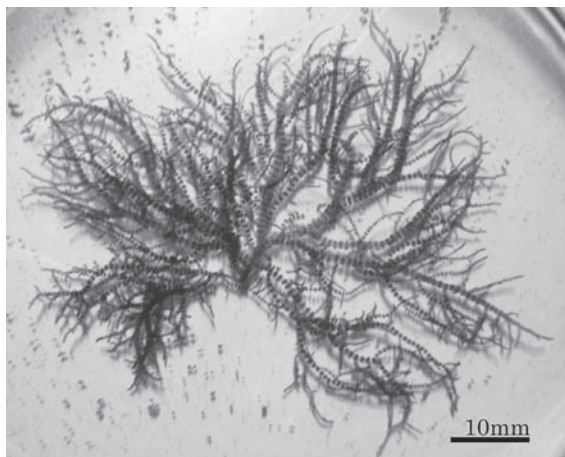


図2 全体

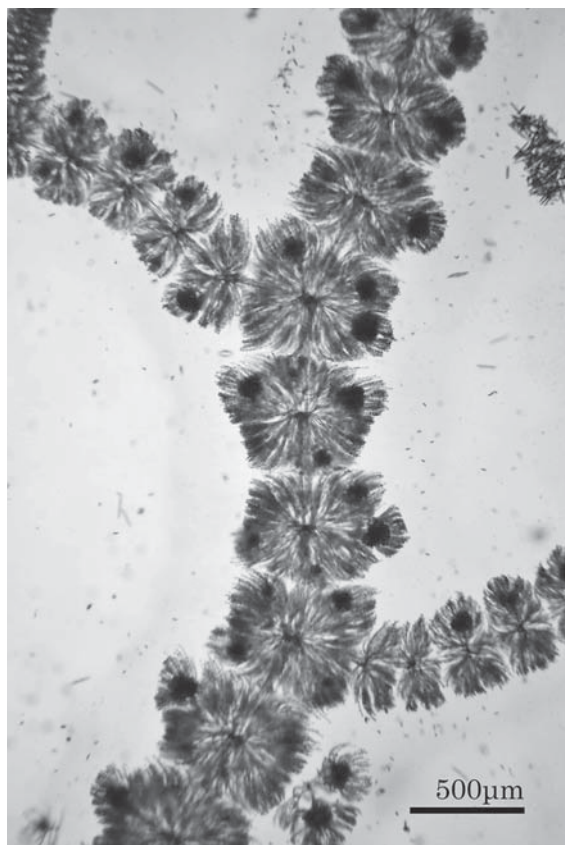


図3 球形の果胞子体がある輪生枝叢

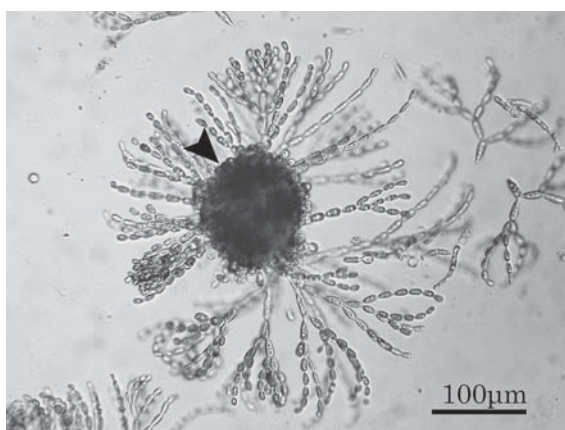


図4 果胞子体 (矢頭)

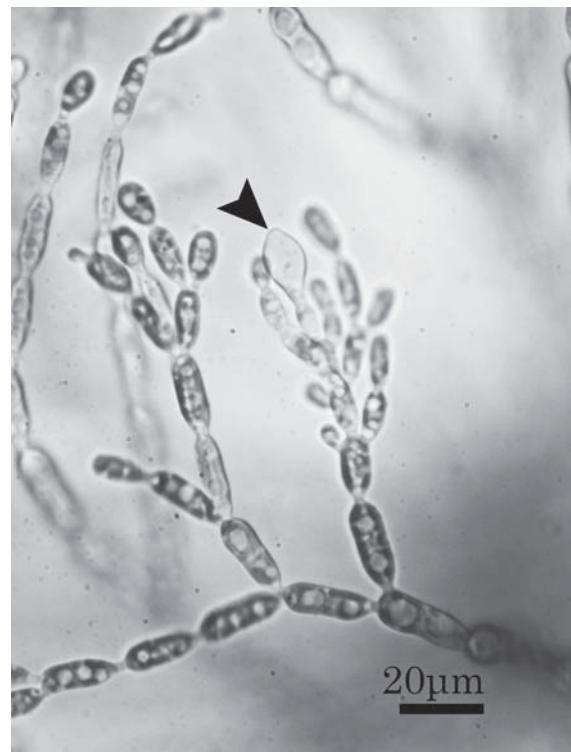


図5 受精毛をもつ造果器 (矢頭)

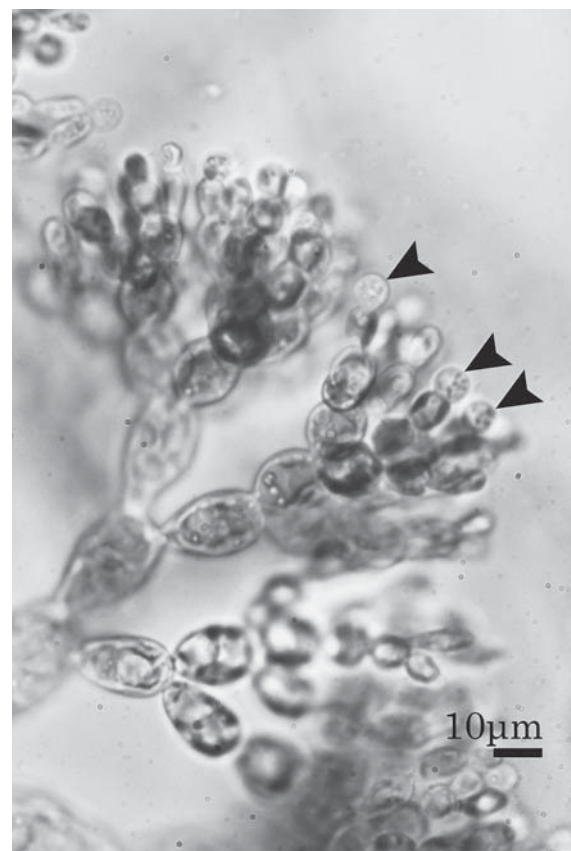


図6 精子囊 (矢頭)